

静岡県袋井市教育委員会

【総人口】 88,321人

【自治体 関連URL】 <https://www.city.fukuroi.shizuoka.jp>

【主担当部局】袋井市教育委員会子ども未来課
（公立幼稚園担当）

（保育所・認定こども園担当）

【主な関係部局】袋井市教育委員会教育企画課
（未来の教育推進室担当）
袋井市教育委員会学校教育課

	幼稚園			保育所		幼保連携型 地域裁量型		小学校		
	国立	公立	私立	公立	私立	公立	私立	国立	公立	私立
施設数		8	1		13	5	6		12	
園児・ 児童数										

事業実施地域・ 協力園校	【実施地域】 袋井市全地区	
	【協力園校】 幼：公立幼稚園 3 園、私立幼稚園 1 園、私立保育所 1 園、幼保連携型認定こども園 3 園 小：公立小学校 4 校	
架け橋期の カリキュラム開発 会議	【会議委員人数】	
	14 名	
	【開催数】 5 回	
架け橋期の コーディネー ター等	【委員属性】 【委員属性】 公立幼稚園教諭 1 名、私立幼稚園副園長 1 名、私立認定こども園長 2 名、私立認定こども園教頭 1 名、公立小学校長 2 名、 公立小学校教頭 1 名、公立小学校主幹教諭 1 名、教員養成大学教授 2 名、地域の有識者 2 名、保護者代表 1 名	
	【配置人数】 2 名	
	【経歴】 ・元公立幼稚園長・指導主事 1 名 ・元公立小学校長 1 名	
架け橋期の カリキュラム		【開発主体】 周南たちばな学園、浅羽学園地区（1 公立幼稚園、1 私立 幼保連携型認定こども園、1 小学校） 袋井あやぐも学園地区（1 公立幼稚園、2 公立小学校） 南の丘学園地区（1 私立幼稚園、1 私立幼保連携型認定 こども園、1 小学校）

カリキュラム開発会議

架け橋期のカリキュラム開発会議を設け、計画的かつ組織的に
検討・開発、実施、検証、改善・定着について協議する

令和4年度（4回）



R4.7 架け橋カリキュラムモデルプランについて協議

課題共有（1）体験や学びの異なり （2）「3つの資質・能力」の育成と就学までに育てほしい姿
（3）円滑な小学校生活のスタート

既存の幼小接続カリキュラム（アプローチ・スタートカリキュラム）を見直し作成

R4.10 架け橋カリキュラム作成について協議

カリキュラム作成の方針決定

留意点の確認（1）育てほしい姿、経験させたい内容 （2）指導上の配慮事項
（3）連携活動、家庭・地域との連携

子どもや地域の実態、願いや教育方針に基づき、主体性、独自性を生かして学園ごとに作成

R4.12 市が目指す子ども像について協議

学園カリキュラム作成

幼小中一貫教育との整合(これまでの取組、大事にしてきたこと)

子ども像を明確にすることで、学園ごとに作成するカリキュラムが独自性を持ちながら同一方向

R5.2 学園カリキュラム協議（市内中学校区ごとの4学園）

学園の特色を生かす

協力園・校から学園内へ周知し、次年度市内すべての園・校で実施依頼

令和5年度（5回）

R5.5 カリキュラム改善について協議 市の全体案を資質能力で内容の見直し（市の3つの柱を見直す）

学園カリキュラムの改善について協議 実践しながら改善点を明らかにしていく（幼児教育は10の姿を
3つの資質能力で再考する）

カリキュラム開発会議の開催経過

R5.7 袋井市版について協議 検証方法について協議

学園カリキュラムを市に統合し、シンプルなものにする（学園の上位版とする）
協力園・校から提出される実践報告書からプロセスを大事にし、資質能力で見とる

R5.10 ステージにおいて育ってほしい子どもの姿について協議
資質能力に視点を当ててのカリキュラム見直し
職員意識アンケートについて確認（幼稚園、保育園、
小学校の全職員）

R5.12 袋井市版について協議 改善案について検討
 検証について協議 実践報告書を資質能力に視点を当てて見とる

R6.2 袋井市版、学園版について検討
袋井市架け橋カリキュラム案、学園カリキュラム案の確認
次年度の方角性の共有（完全実施に向けて）

カリキュラム開発会議の成果と課題

【成果】

- ・市が推進する「幼小中一貫教育」と「架け橋事業」のつながりを、本会議を通して確認した。
- ・幼小の教職員、保護者、関係機関等からの幅広い意見を集約し、事業の具体的取組に生かすことができた。
- ・関係者、関係機関の連携が強化され、目標や取組について情報共有を行えた。

【課題】

- ・現場の様子を参観する機会を計画したが、思うように委員の参加がのぞめなかった。
- ・保育園、幼稚園、こども園及び公立園、私立園という現場の声を踏まえた十分な意見交換をするには、時間設定及び情報提供等に課題が残った。

[illegible]

架け橋期のカリキュラム

開発プロセス

4 学園の協力園・校のワーキンググループメンバーが中心となり、開発の実務を担った。既存の幼小接続カリキュラムを見直しながら5歳児と小学校1年生の2年間に期間を拡大するとともに、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を視野に入れながら作成した。しかし、小学校教育との連続性を考えた方がよいとの意見から、3つの資質能力（知識技能の基礎、思考力・判断力・表現力の基礎、学びに向かう態度・人間性等）に再編成した。

これまで実施してきた交流活動（子ども、教職員）の拡大・充実、連携強化を図り、目的の明確化や子どもの育つ姿を資質能力に視点をあてて、計画、振り返りの内容充実を目指したが、協力園・校以外において、実施方法や内容の充実に差異が生じた。そこで、授業・保育参観をしながら情報提供やアプローチ、アドバイスを行ってきた。

カリキュラムの概要

既存の幼小接続カリキュラムを2年間に拡大するとともに、3つの資質能力で再編成した。市の統合版を作成するとともに、市が目指す方向性を共有しながら学園の特色を生かした各学園版を作成した。学園を越えた広域の連携が必要な保育園やこども園は市統合版を活用できるようにした。各校においてスタートカリキュラムの年度初めの取り組み方法の工夫改善を行い、実践に結び付けた。

カリキュラムの実践

教職員が、どのような資質能力を子供に付けさせたいか考えた指導が行われるようになった。子供たちは、活動の中で深く考えたり、それを伝え合おうとしたりする姿が見られた。実践を通して資質能力に視点をあてた検証を行い改善につなげ、課題を共有しながら実態に合わせて取り組んでいる。小学校によっては年度当初遊びの時間の充実により学期末があわただしくなったこともあり、次年度に向けて授業改善や工夫が求められた。

市内の全園・小学校の教職員、保護者意識アンケートを実施し、架け橋プログラムについては概ね理解されており、幼保小で同一步調で推進している成果は表れた。「意識して取り組んでいる」、「成果を感じている」と回答する率が低いため要因を探り改善していく。



小学校教員の保育体験



園児児童の交流活動

次年度への展望

市内すべての園・小学校で「架け橋期のカリキュラム」を実施

1 「架け橋期のカリキュラム」の実施・検証・改善

資質能力を育む保育・教育を全園・校で実施し、園児、児童の様子を参観しながら進捗状況を確認し、実践事例をもとに各会議等において成果や課題を検討し改善へつなげる。（教職員や保護者等へのアンケート実施）

2 交流体験事業の充実

引き続き機会の増加や内容の充実、対象児、対象園の拡大を図り、期待感、達成感を味わえる取り組みを進める。

3 教職員の連携

教職員の資質向上に向け、異校種参観・体験の充実、授業研究を進める。また、幼保小合同会議の工夫、支援や配慮を要する入学児の情報共有と事前参観により入学時の対応に備える。

4 事業の理解促進

引き続き通信等による情報発信を行う。特に担当以外の教職員、保護者、地域への理解促進方法を工夫し、広く市民への情報提供を図る。

5 インクルーシブ教育の充実

幼小の情報の円滑な引継の仕組みを構築するとともに、交流、共同活動の拡充等に取り組み、就学前から中学校卒業までの共生教育・インクルーシブ教育を推進する。

6 自走できるしくみづくり

委託事業終了後も自走できる組織・しくみを整え、学園、各園・校において、保護者、地域とともに具体的取組につなげる。

